



しょう がっ こう
笑・楽・幸 通信

「いい顔」「いい声」「いい心」

No.20

【発行日】令和6年11月28日

【発行者】校長 金井 哲也

6年生社会科見学 ～南アルプス市と戦争～

11月26日（火）の午前中に、6年生は社会科見学で、南アルプス市内にある戦争遺跡（ロタコ）をバスで巡ってきました。「ロタコ」とは、「第2立川航空廠（こうくうしょう）」を示す暗号名と言われています。講師には、いつもお世話になっている文化財課の斉藤さんと、当時の様子を知る地元の市川さん（98歳）と飯野さん（93歳）、飯野さんの息子さん（元白根東小校長の飯野芳重先生）の4名にお願いし、それぞれの見学場所でお話を伺いました。

最初に、3号掩体壕（えんたいごう）へ行きました。掩体壕とは、飛行機を空爆の防風から守り、格納し、隠しておく施設のことです。現在は、コンクリートの基礎が残っていました。

次に、「御勅使河原飛行場」の滑走路跡を見学しました。畑の中に一段高くなっているところがあり、それが八ヶ岳に向かって真っすぐ伸びていました。滑走路を造ったのは、戦争に行かずに残っていた小学生や女性たちが、人力だけで土を掘ったり運んだりしたそうです。

そして、飯野小学校の体育館の所にある「学徒動員の碑」の前で、当時の生活ぶりや甲府空襲などについてのお話を伺い、「戦争は二度と起こしてはいけない」ということを強く話されました。

最後に、築山地区から飯野西部のループ橋の山の斜面にかけて作られた「横穴壕群」の跡を見学しました。市川さんの体験から、親孝行の大切さについても話していただきました。

この日は、少々肌寒い日でしたが、講師の方々の話を真剣に聞き、メモを取りながらしっかり見学ができました。平和の大切さについて考えることができた、充実した社会科見学でした。

